

千代田区は 2024 年までに CO₂排出量の 30%削減を目指します！



エコが千代田の自慢です！

エコチヨ



「環境・リサイクル祭り」

千代田のエコを推進しよう！



千代田エコシステム

Vol. 2

2015 秋号



「区内一斉打ち水」

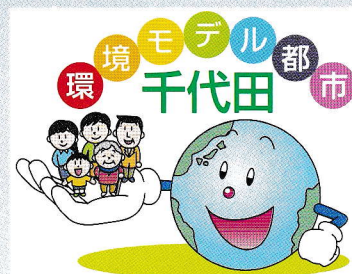


「ちよだ・つま恋の森づくり植樹ツアー」

【特集】環境対談

～企業としてできる環境対策のこれから～

三井住友海上火災保険 × 三菱地所



千代田区は、「温暖化配慮行動計画書制度」を実施し、300名以上の従業員がいる事業所には温暖化に配慮した行動の計画書及び報告書の提出を義務付けています。その中で、優良な取組みをされている事業所を表彰しています。

今回は優良な取組みをされている事業所のお二人にお話を伺いました。

この方々に
お話を伺いました

【左】浦嶋 裕子さん
三井住友海上火災保険株式会社
総務部地球環境・社会貢献室 課長



【右】竹内 和也さん
三菱地所株式会社
環境・CSR推進部 副長

◇ 竹内さんが所属する三菱地所は、新丸の内ビルに環境戦略拠点エコツェリアを設置されるなど、多様な取組みをされていますね。

竹内 先進的な大企業と伝統的な商店・会社が集積している千代田区という地域で、単体の企業や団体だけでなく、大手町、丸の内、有楽町のエリア全体で、意見交換・連携して進められる施設が必要だと、エコツェリアを作りました。今まで企業単体で考えていたことを、地域の企業、大学、NPO、NGOの方々の意見を聞いて作り上げることを、われわれの街づくりの戦略、環境への対応方針としています。

また、エコツェリアでは、LEDグリッド照明の導入や空調を使わず天井のパネル自体を冷やすことで部屋全体を冷やして使用電力量を削減するなど、様々な実験をしてきました。

加えて、新丸の内ビルは、契約電力の約半分を木質バイオマス等の再生可能エネルギーとしています。

まちづくりは当社の本業ですが、日本のGDPの20%以上を稼ぎ出す企業が集積している丸の内エリアで、きちんとしたものを作れば、その技術やアイデアを別の拠点に持ち帰って広げてもらうことができます。丸の内エリアを情報発信拠点として活用していくことが我々の

責務だと考えています。そこを千代田区の行政の皆さんにも理解してもらい、今日まで、支援してもらっていると思います。千代田区は、地域性をもった企業と行政が非常に連携できているエリアのひとつであると思っています。

◇ 浦嶋さんが所属する三井住友海上火災保険は損害保険会社でありながら、積極的に屋上庭園や緑化を取り込んだ本社駿河台ビルを建てられていますね。

浦嶋 1984年に、中央大学が八王子に転出した跡地に本社を作ったのですが、30年前の当時としては大英断だったと思います。駿河台ビルには地域の声を取り入れて、低層階の屋上を全面緑化した屋上庭園があり、現在は道を挟んだ向かい側に、地域の交流拠点となることを目指して作った環境コミュニケーション施設「ECOM 駿河台」もあります。「ECOM 駿河台」には、環境への取組みの背景がわかるパネルも展示しています。本社を訪れるお客様、特に海外からのお客様の反応がよく、こうした取組みが重要だと共感していただいています。外部の方の評判から社員も関心をもってくれるようになっていきます。駿河台ビルでの環境の取組みは、外から、当社がどう見られるかを映す鏡になっていると思います。

本業だけでなく企業は社会と様々な関係をもつべきだと思いますが、駿河台ビルは CSR（企業の社会的責任）の多様な側面を体験できる場所になっていると思います。



▲緑に囲まれた環境コミュニケーションスペース
ECOM 駿河台

「生物多様性」「環境配慮行動」
どうすれば伝わる？
担当者の試行錯誤



◇ 素晴らしい取組みをされていますが、失敗や苦勞、課題などもお聞かせください。

竹内 CO₂ を削減する省エネは国の方針があるし、やりやすい。また、やらなくてはならないですね。取組めば数値化され結果が見えるので、社員を巻き込みやすい施策です。一方、生物多様性はことばもわかりにくいし、なかなかわかってもらえない。我々も自分の事業と結び付けて何を発信していくかがわからなかった。そんな時、外部の研究会で浦嶋さんから、例えば当社なら「緑地の整備」や「原材料の調達」に結びつけて生物多様性を考えることが可能だと教わり、駿河台ビルも訪問しました。先進的に取り組んでいるところを紹介し、目で見るようにすることによって、会社や社員もようやく腑に落ちたようでした。現在では各事業グループで自主的かつ積極的に取り組んでおり、CO₂ 削減に並ぶ環境目標として浸透しています。

浦嶋 当社の場合は、生物多様性と本業の損害保険業との距離が遠いんですね。ビジネスはショートタームで動

いています。長期スパンでの持続可能性のリスクを、と言っても、今月保険が売れるかどうかで努力して仕事をしている社員に、どういう言葉で伝えていくかが難しかった。けれどもお客さまが興味をもってくださいすることで担当社員にも興味をもってもらえます。自分は保険を扱う部署で仕事をしているけれど、相手の会社は当然 CSR にも取り組んでいるわけで、共感してもらうためにはお客さまと多面的なつきあいをする懐の深さが大事だと思います。

生物多様性はどのような切り口で入っていくかが大事で、そこに知恵を使います。例えば、食から環境、生物多様性を考えれば、わかりやすいかもしれません。はちみつはミツバチがいる生態系でないとできないし、花が違くと味も違うという面白さから入っていくのもいいと思います。

◇ 現在、世界の ESG 投資市場は\$21 兆といわれ、投資家は E（環境）＝CO₂ 削減など
S（社会）＝女性の雇用など
G（企業統治）＝資本効率などを分析し投資しているといわれます。このような動きについて、お考えをお聞かせください。

浦嶋 海外の投資家が、「環境への配慮」を、企業を評価する「ものさし」にするようになってきています。例えば、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス（持続可能性評価と選別基準）では、最近では、マテリアリティが問題にされます。つまり、あなたの企業にとって、何がサステナブルという視点で重要な経営課題か、それを整理して、対外的にアピールしているかが問題とされます。

竹内 当社グループの CSR 報告書は G4* に中核準拠しています。（*企業が CSR 報告書や持続可能性報告書を作成する際に参考にしてしている国際的なガイドライン：GRI ガイドラインの第4版）

浦嶋 紙やごみの削減など、数字がでるものに、経営者は敏感に反応します。

竹内 日本人は、直近の数字には敏感だけど、長期のロードマップをつくるのが苦手とも言われます。

浦嶋 いま私たちは、「環境取組みは、紙・ごみ・電気を減らすことだけ頑張ればいい」との認識を払しょくすることに取り組んでいるといえます。当社では、以前は

本社だけでなく全国の支社も含めて環境ISO14001に取り組んでいましたが、行きつくところまで行きつき、例えば、どこかの営業所でも裏紙を使うようになりました。そこで、多くの項目をいちいちチェックする外部認証審査は対象を本社のみにして、その代り、「MS&AD みんなの地球プロジェクト」として、全拠点でこれまでと同様に環境マネジメントシステムを進めています。

今は次の取組みとして、例えば本社が保険の約款を紙からWEB化へと進めています。本社が仕組みを構築すれば、全社に波及させることができ、莫大な効果があります。企業の本部がコストカットや環境に配慮し、業務プロセスの無駄な部分を効率化する、物流の無駄を省くなどの施策を実践していくことが大事です。

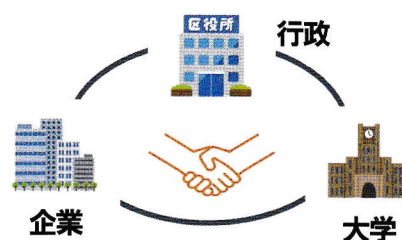
また、損害保険会社である当社は、異常気象の際の損失を補てんする天候デリバティブや、再生可能性エネルギーの保険などを提供しています。本業で環境に貢献することの方が、裏紙を使うことよりも重要で、企業の成長にも結びつきます。

今、先進的な企業はこうした方向にシフトしています。企業にとって、環境とビジネスがトレードオフではなく、Win - Winになれるかどうか問われていて、その方向に進めば、社員の共感も得やすくなります。

竹内 我慢とか美德とか精神論的なところは、皆さんもう身に付いていて、新入社員は学校でかなり環境教育を受けてきています。今後は、会社や自らの業務で何かを始めることで社会へ影響を与えることができるということを広く社員に理解してもらいたいです。

◇ CSR に取り組むことで企業のブランドイメージを上げていくということでしょうか。

竹内 CSR に取り組むことでブランドイメージを上げようとは思っていません。今は国も都も区も企業も頑張らなくてはいけない時です。特に 2020 年の生物多様性中間プロジェクト目標に向けて協働をはかることは大事だと思います。昔は企業の枠を超えて、当社と三井住友海上さんが一緒にやることはなかった。でも今は、環境、自然保護、まちづくりのキーワードでは一緒に勉強、イベントをさせて頂いています。同じ地域で同じ問題を共有していると、共に取組みやすいし、千代田区等の行政、周辺の企業や大学とも一緒に連携していきます。



これまで我々は、丸の内エリアを中心とした一事業主との考え方をしていましたが、今後は地域住民にも入って頂こうと思っています。例えば、開発する分譲マンションで「ビオネットイニシアチブ」の考え方を新たに出しています。マンション外構部分の植栽を在来種中心として敷地の周囲だけでなく、まとまった緑地をつくることで、生き物の中継ポイントとし、千代田区でいえば皇居から市ヶ谷等まで広げる計画です。

浦嶋 最近、CSR（企業の社会的責任）に対して CSV（共通価値の創造）という言葉が出てきています。三菱地所さんと当社は、まちづくりに対して本質的にいかに持続可能性を担保するかを考えていると思います。日本でも集中的に雨が降れば道路が水没するなど、気候一つをとっても様々なリスクをはらんでいます。持続可能性を高めることはビジネスリスクを回避することでもあります。開発をする一方でリスクソリューションを長期的なスパンで考えていかなくてはなりません。短期的に企業のブランドイメージをアピールすることよりは、今、長期的に、これから都市はどうあるべきかを考えるところにきていると思います。

竹内 千代田区は注目されるエリアであり、発信力のある方々が集まっている場。このような千代田区の特徴を活かしていくことが大事だと思います。今、地方の森で

「千代田区」という エリアであるからこそ



浦嶋 アジアがどんどん都市化していくこれからは、先進国の日本は先行モデルになります。当社もそうですが、日本のビジネスはアジアと密接になっています。開発をする際にエコロジカルなネットワークを作り、都市型の生態系も作り得る。そうしたモデルをアジアの都市に伝えていくことができるといいなと思っています。千代田区というエリアの事例をベストプラクティスとして伝えていける、そうした場に私たちは立地できていると思います。

は鹿による食害が多くなっていますが、昨年の秋、当社が環境省と北海道庁と協力して、鹿による害を何とか食い止められないかと、丸の内エリアでシンポジウムを開きました。丸の内のレストランで鹿肉をジビエとして出してもらうことで消費を促進し、狩猟・加工に携わる方々を支援することを目的としました。丸の内のレストランは地域の産物がなければ成り立たないし、住宅を建てるには木材がなければ成り立ちません。地方との連携の要として、千代田区のこのエリアが持続可能性を進めることに協力しなければならないと思うのです。



▲「ホトリア広場」イメージCG

三菱地所(株)が開発を主導する、大手門タワー・JXビルと大手町パークビルの間に整備する約 2,800 m²の生物多様性保全に配慮した緑豊かな広場
(2017 年春完成予定)

社会が良い形になるには



◇ より良い社会をつくるための環境対策や、将来への展望についてお考えをお聞かせください。

竹内 経営層の環境保全への考え方も変わってきています。紙・ごみを減らすという視点ではなく、本質的なところを重視しています。当社でも全役員が入って生物多様性保全を含む環境・CSR 全般についての会議をしています。

社員も教えられた知識や仕組みはわかっています。木材を使う仕事なので森林を守るということはわかるけど、国土を強くし、日本らしさや文化を守るということまで

はつながらない。例えば、古来から日本では同じ緑色でも新緑の頃を示す萌黄色とか多くの伝統色があり、カタツムリのヌメっとした感触とか、自然を通して多くの言葉や感覚が身に付くのです。価値を生み出す知恵の源泉は五感をきちんと育てることではないかと思っています。そのお手伝いも私たちはしたい。私たちの知恵により新たな価値が吹き込まれ、魅力ある地域を創造していくことが理想です。

浦嶋 そうですね。若い人は圧倒的に実体験が少なくなっています。宮崎駿さんが言っていたんですが、アニメーターが火を描けなくなったそうです。裸火を実際に見ていないんですね。現実とかけ離れてしまっている。いまこそ現実と向き合って、生き物としての実感やつながりを確認すること、つまり、生物多様性を進めることにより、日本人の環境に対する感度を高めることになると思います。

竹内 実は地方では車移動が多く、都市部の子供たちが方が自然に触れる機会が多いとの話もあります。私たちは「エコキッズ探検隊」という都心の子供たちに環境・体験学習をする場を設けています。もっとそうした場を増やし、そこで学んだ子供たちが、大人になって創造力を持てれば、人にとって心地よい街やモノを作り出すことにつながるのではないのでしょうか。それは人間の持続的な成長だと思います。人と地域、国、地球が結びつくと、画期的なイノベーションが起きるかもしれません。もしかしたら近い将来、このような人々が丸の内エリアや千代田区に新たな価値を吹き込み、還流してくれるかもしれません。

環境対策は、お金がかかることばかりではありません。大きい会社や行政でしかできないということはないです。すぐにできることも、手間は掛かるかもしれないけどできること、協働すればできること等もあります。そうしたことを今日の対談で感じてもらえたらと思っています。

浦嶋 やる気と熱意があればお金の問題ではありません。CSR は短期的には本業につながらないかもしれませんが、将来に向けて、社会の課題を解決するビジネスをいかに先取りしていくかにつながるのだと思います。本当に社会的に求められていることだったら、商売になる。将来に向けて何を成長の糧にしていくか、それをとらえるアンテナを高くもつこと、アンテナの受信がうまくいっていると、行政も企業も大学も地域も良くなっていくと思っています。

CES クラスⅠ
とは?

CES クラスⅠは、千代田区にかかわる皆様ひとりひとりが「身近なエコ」に取り組み、CO₂削減を実現するために作られた、千代田区独自のしくみです。

活動報告

1

「ちよだ・つま恋の森づくり 植樹ツアー」に参加しました

千代田区は、平成 24 年度から姉妹都市の群馬県嬬恋村と共催で「ちよだ・つま恋の森づくり 植樹ツアー」を実施しています。

今年は、5月23日(土)・24日(日)に千代田区在住・在学・在勤者21名が参加し、ツアー1日目は、地元の自然ガイドの説明を聞きながら自然観察と散策、2日目はバラギ高原でカラマツの苗木を植樹しました。

この植樹ツアーに、千代田エコシステム(CES)推進協議会会員が参加しました。

興味津々の
自然観察



みんなの力でスキー場が
カラマツ林に再生されます。

往復のバスの中で環境クイズを行い、『私たちは毎日の生活の中でCO₂をどのくらい排出しているか』『CO₂削減のためにはどうしたら良いか』『どんな木を植えたら、より多くのCO₂を削減することにつながるのか』などの問題を出題し、ツアーに参加した子どもたちは一生懸命に考えながら、環境保全について学びました。

活動報告

2

「環境・リサイクル祭り」に参加しました

千代田区は、6月の環境月間に「環境・リサイクル祭り」を開催しています。

今年は、6月12日(金)に区役所1F区民ホールで開催し、約1,000名の方々が来場されました。このイベントに千代田エコシステム(CES)推進協議会が出展協力しました。“毎日の生活の中でCO₂がどのくらい排出されているか”を知ってもらうことを目的に、風船を使って、1人が1日に出すCO₂の量を表し、その風船を来場した子どもたちに配りました。



風船1個を1kgのCO₂として、
1日に家庭で排出されるCO₂
は風船何個分でしょうか。

答え：風船 14～15 個分
(約 14～15 kg)



また、CES 環境講座の一環のフィールドワークとして、午後からは『私たちが1日に排出するCO₂を削減するためにどのくらいの面積の木が必要なのか』について、実際に北の丸公園を歩いて体感するイベント「自然観察会」を開催しました。当日は、約 50 名の方々が参加し、私たちが排出するCO₂を吸収するためにどのくらいの木が必要になるかを、北の丸公園を歩きながら学びました。



北の丸公園でCO₂削減に必要な木々の量を皆さんで体感

活動報告

3

神田神社（神田明神）での打ち水 大トリは中止となりました



千代田区は毎年8月を「打ち水月間」とし、区内各所で打ち水の参加を呼び掛けています。

8月 29 日（土）、千代田エコシステム（CES）推進協議会は、打ち水月間の大トリとして、神田神社（神田明神）で打ち水と御祈禱を予定していましたが、雨天のため打ち水は中止となりました。そのため参加者全員で『千代田区全体のCO₂排出量が減り、千代田区に関わるすべての方々が末永く健康に暮らせますように』と、御祈禱のみを受けました。

活動報告

4

CES 環境講座を開催しました

千代田エコシステム（CES）推進協議会は、「CES 環境講座」を毎年開催しています。今年も下記日程のとおり実施しました。今年は『今さら聞けない地球温暖化って？』をテーマに、『CO₂削減のために私たちは何ができるのか？』について様々な角度から学び、学んだ内容を誰にどのように伝えたら良いかを考察しました。

なお、今年度からは、より多くの方が参加できるよう、講座は1日に2回（昼間・夜間）、同内容で開講しました。

開催日	内 容	講 師
9月 1日(火)	「地球温暖化とその対策」	加藤 央之 先生
9月 8日(火)	「千代田区の地球温暖化対策の取組み」	千代田区 環境まちづくり部 環境政策課長
9月 15日(火)	「CO ₂ の発生源と削減方法を知る」	渡辺 龍美 先生
9月 29日(火)	「私の環境宣言～私のやれるCO ₂ 削減は～」	中島 ゆき 先生

CES クラスⅢ
とは?

CES クラスⅢは、企業・団体など事業所の皆様に向けて、千代田区が独自に構築する、CO₂削減のためのしくみ（環境マネジメントシステム：EMS）です。

活動報告

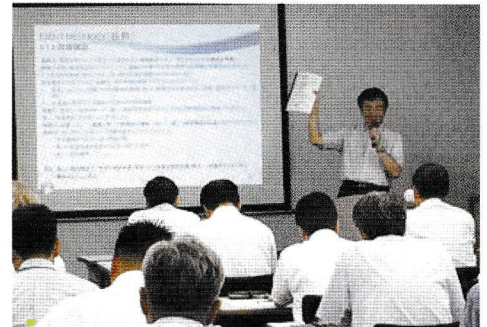
東京商工会議所千代田支部にてセミナーを開催しました

千代田エコシステム(CES)クラスⅢは、環境マネジメントシステムの国際規格である ISO14001 をベースに、千代田区が独自に構築したしくみです。

今年は、その CES クラスⅢの元となっている ISO14001 が大きく改正されます。環境マネジメントシステムを導入している企業にとっては、大変な転換期。改訂内容など、最新情報の収集に追われるなかで、何かと疑問も生まれているようです。

そのような状況の中、CES を導入することでそのサポートができればと、東京商工会議所千代田支部のご協力を得て、8月5日(水)に、当協議会の山田勝己副会長が講師となり、ISO14001:2015 の最新動向を解説するセミナーと共に、CES クラスⅢの紹介をさせていただきました。

会場は定員いっぱい満席。東京商工会議所千代田支部の会員から 50 名程が受講し、皆さん熱心に聞き入っていました。受講者は現在 ISO 事務を担当している方が多くを占める中、まずは改正スケジュールの説明や、発表されたばかりの ISO 最終国際規格案の解説を行いました。続いて、CES クラスⅢについての概略と、クラスⅢも ISO の改正に合わせてリニューアルする旨をご案内し、受講者の関心を引いていました。



CES クラスⅢは、その取組みの流れを「CES クラスⅢガイド」CESクラスⅢのベース、ISO14001の解説もにまとめているますが、このガイドは既に改訂作業に入っています。改訂版の CES クラスⅢガイドは、最新の ISO14001:2015 に完全準拠したものとなり、これから環境マネジメントシステムに取り組もうとする事業所だけでなく、既に ISO などの規格で認証を取得している事業所でも、活用することができます。

千代田エコシステム(CES)推進協議会では、このような改正をきっかけとした CES 導入セミナーを引き続き各地で開催し、千代田区に所在する事業所の皆様へ、CES クラスⅢの導入を広く呼びかけていく予定です。



会場は満席、活発な意見交換が行われました

1930 年創業のサンタックス株式会社は、千代田区で地域に根差した自動車整備業を主軸として、豊富なアイディアと行動力でさまざまなことにチャレンジしています。

自動車整備業を営む中小企業は、取り扱う商品の複雑さなどから環境貢献活動になかなか取り組みづらく、千代田区内でもまだ CES を導入している業者がいませんでした。その先駆けとして、サンタックスでは「自動車整備業の環境貢献」に挑戦することを決めました。環境マネジメントシステムの中から、千代田区への地域貢献も可能な「CES クラスⅢ」を選択し、活動を開始。現在、CES 監査員によるアドバイスを受けながら、帳票類などの準備を日々行っています。これまでも、「できることからやっ払いこう」と事務所で使用済みテープの巻芯を集めて寄付し、段ボール再生とマングローブ植樹に貢献しています。



巻芯を集めて植樹に貢献



▲ 社員一丸となって意欲的に取り組んでいます

【企業情報】

住所：千代田区神田東松下町 25
電話：03-3256-8801
<http://www.suntacs.co.jp/>

「先駆け」として積極的に挑む社風は、製品にもあらわれています。2011 年には、社員の「作りたい」という強い思いから、自社でガソリン車のエンジン等を入れ替え電気自動車を製作。東日本大震災の際には、ガソリン不足の中、この電気自動車が大活躍しました。あわせて、重量物やけが人の運搬に活躍する「電ネコ（電動階段運搬車）」や防災用品の取り扱いも開始し、全国展開するほか、千代田区内の防災訓練に出向き、非常食の試食会を行うなど、区民とのふれあいも大切にしています。

「何に対しても社員が一丸となって取り組んでいる」というサンタックス。そのチームワークと積極性で、CES クラスⅢの活動も、より効果的な環境マネジメントになることを目指しています。

CES クラスⅢ導入のメリット

1 環境意識の向上

CES を導入し、環境目標や目的を達成するためには、あらゆる局面で環境へ配慮する必要がある、組織の一人ひとりの取組みが不可欠です。CES 教育、研修および日常の取組みなどを通じて、環境意識やモラルの向上を図ることができます。

2 イメージの向上

CES を導入したことを公表したり、取組み結果を環境報告書としてまとめることなどにより、積極的に環境に配慮している組織であることがアピールでき、社会的地位やイメージの向上が図られるとともに、ステークホルダーとの良好な関係を維持できます。また、環境にやさしい事業者として消費者からの支持を得られるなど、ビジネスチャンスにつながることも期待できます。

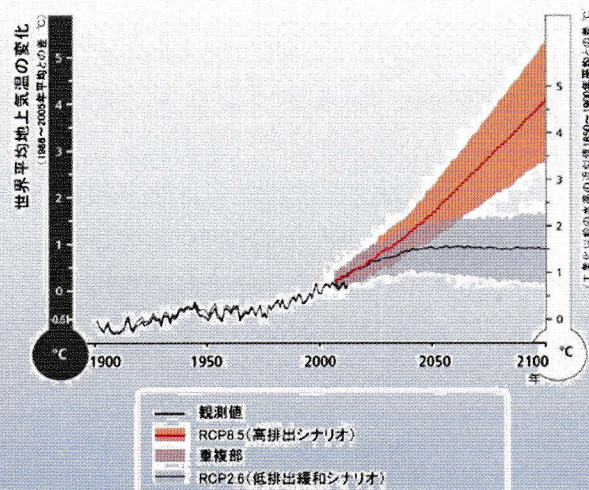
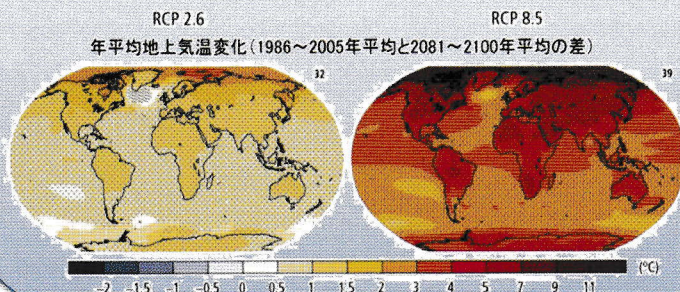
3 コスト削減、業務の効率化

省エネ・省資源や廃棄物の削減など環境関連の管理を CES で行うことにより、環境負荷の低減に加えて、エネルギーコストや処理コストなど、全体的なコストの削減につながります。また、環境の視点での業務の見直しにより、業務の効率化と、新たなコスト削減につながります。

温暖化対策の取組み ～ZEB（ゼブ）施設の設置～

温暖化のリスクについて

- IPCC第5次総合評価報告
地球温暖化は疑う余地がなく、
人為的影響だと明らかとなりました。
このまま温暖化の原因である二酸化炭素（以下CO₂）
が増加し続けると2050年以降、
温暖化は急速に加速していくと発表されました。

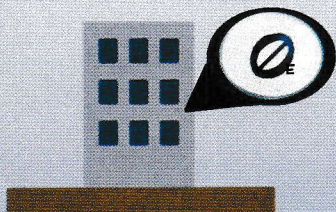


出典：図.IPCC 第5次評価報告書より

CO₂削減が急務!! CO₂排出ゼロの技術促進

技術① ZEB

- ZEBとは
ゼロ・エネルギー・ビルの略で、太陽光発電等による創エネルギーにより、ビルのエネルギー使用量が年間収支0（ゼロ）となる建築物をさします。
- 地球温暖化問題を背景に、国は低炭素都市の構築のため、ZEBを推進しています。



$$(\text{使用エネルギー}) - (\text{創エネルギー}) \leq 0$$

技術② 水素エネルギー（H₂）

- 水素エネルギーの特徴
(1) 使用時のCO₂排出量は0（ゼロ）
(2) 水素は様々な資源からつくることが可能
(3) 貯められ、運ぶことが可能
(4) 非常時の電力としても有効
- キーポイント > CO₂フリー水素の構築
ほとんどの水素は、水など化合物として存在しているため、水素の製造にはエネルギー分解が必要となります。CO₂フリー水素とは、水素製造時に再生可能エネルギーなどを活用し製造時のCO₂排出ゼロの水素をさします。CO₂フリー水素が社会に浸透し水素社会が実現すれば、地球温暖化にも大きく貢献することになります。



千代田区の取組み

- 千代田区地球温暖化対策地域推進計画 2015
- ① 目指す将来像
『エネルギー利用によるCO₂排出ゼロのまち』
- ② 二酸化炭素（CO₂）排出削減目標
2024年度までに、
CO₂排出量を30%削減（1990年度と比較）
- ③ 重点的に取り組む事業のひとつに
『ZEBモデル施設の設置』を掲げています。

●（仮称）ちよだエコセンターの構想

（仮称）ちよだエコセンターは、地球温暖化について学び、環境について考え、将来の子供たちが住む環境への架け橋となるような施設を目指します。

更に当施設では、『ZEB』や『水素エネルギー等創エネ技術の導入』も視野に入れて構想を検討しています。

2015 年度下半期 イベントカレンダー

千代田区環境政策課と CES 推進協議会の 2015 年度下半期のイベントを紹介します。

10月

環境作品展

10月9日～16日

区内の小学生が作成した環境ポスターと
中学生が作成した環境標語を展示します。

日程	時間	場所
9日(金)	8:30～20:00	千代田区役所 1階 区民ホール
10日(土)	8:30～17:00	
11日(日)	8:30～17:00	
12日(月・祝)	8:30～17:00	
13日(火)	8:30～20:00	
14日(水)	8:30～20:00	
15日(木)	8:30～20:00	
16日(金)	8:30～13:00	



写真は昨年の
環境ポスター展・標語展



前回の最優秀賞
「今日味芯タバスタ」

CES エコレシピコンテスト

10月11日(日) 10:00～

東京家政学院大学

千代田三番町キャンパス 1号館

江戸野菜を使った、エコで美味しいお料理のコンテストです。ご応募いただいたレシピの1次審査を通過した方々に、当日調理をしていただき審査をします。今年は、コンテスト前に「エコ・クッキングについて」の講演会も行われます。

★詳細は、千代田エコシステム(CES)推進協議会にお問合せください。

CESではじめよう!!

エコ&サイクルフェア／千代田のエコ自慢

10月31日(土)10:00～15:00

千代田区役所1階区民ホールほか

千代田区交通施策推進課
千代田清掃事務所
CES推進協議会 共催



サイクル(自転車)&リサイクル(再生利用・循環型社会)
楽しい企画が一杯です!!



区民体育大会

10月18日(日)外濠公園グラウンド

毎年10月に熱戦がくりひろげられる区民体育大会。環境政策課では発電体験ブースを出展し、節電への意識啓発を行います。CES推進協議会では区と連携し、区民の皆様と一緒にゴミの分別を行います。おいしいお弁当を食べたあとは、ゴミの分別をして、千代田区のゴミの減量とリサイクル、CO₂を削減しましょう!!
詳細は広報千代田・区のホームページをご覧ください。

◆リサイクル自転車・再生家具抽選会

◇自転車安全講習会

◆かえっこバザール(おもちゃ・子供服)

◇環境講座修了式・エコレシピコンテスト表彰式

◆万華鏡づくり

◇各団体の温暖化対策への取組みのご紹介

◆環境漫才 など

詳細は千代田区交通施策推進課または千代田エコシステム(CES)推進協議会にお問合せください。

12月

環境カレンダーの作成・配布 —12月上旬—

家庭でも地球温暖化対策に取り組めるように、小中学生の環境作品やエコ情報を掲載した環境カレンダーを作成し、広く区民に配布します。



写真は2015年カレンダー

1月

温暖化配慮行動計画書制度 平成27年度 優良事業所の選定及び表彰 —1月下旬—

区へ報告のあった、区内各事業所の温暖化配慮行動への取組みの中で、優良な取組みを行った事業所を選考して、表彰式を行います。



千代田のエコを推進しよう！



千代田エコシステム(CES)推進協議会では 会員募集中です！

千代田エコシステム(CES)推進協議会は、千代田区地球温暖化対策条例に定められた環境マネジメントシステム「千代田エコシステム(Chiyoda Eco System:CES)」を普及・啓発しています。

CES クラスⅠ (個人)

千代田区にかかわる皆様ひとりひとりに向けて、CO₂削減について普及啓発しています。CO₂削減について考え、学ぶためのさまざまなツアーや講座などを実施しています。

CES クラスⅡ (個人事業主)

商店など個人事業主の皆様が気軽に CO₂削減に取り組むためのツールとして「環境配慮宣言『千代田のエコ自慢』」を推進しています。

CES クラスⅢ (事業所)

企業・団体・学校などの事業所向けに、千代田区が独自に構築した環境マネジメントシステム(EMS)がCESクラスⅢです。ISO14001 がベースの簡易版 EMS です。

■ 年会費

対象／会員種別	正会員	賛助会員
大学	60,000 円	30,000 円
企業(資本金1億円以上)	60,000 円	30,000 円
企業(資本金1億円未満)	20,000 円	10,000 円
上記以外の団体	10,000 円	5,000 円
個人	2,000 円	1,000 円



CES登録会員も募集中！

☆登録費用は無料！

☆エコに関するイベント情報やメルマガを配信します！エコ活動をこれから始めてみたい方もお気軽にどうぞ。

*入会方法他につきましては、千代田エコシステム(CES)推進協議会までお問い合わせください。

■ 会員企業・学校・団体 (2015年9月時点、敬称略・順不同)

(企業) 三菱地所株式会社、株式会社大塚商会、東京電力株式会社 銀座支社、東京ガス株式会社 中央支店、東洋美術印刷株式会社、サンタックス株式会社

(学校) 学校法人法政大学、学校法人日本歯科大学、学校法人大原学園、学校法人専修大学、学校法人明治大学、学校法人大妻学院、学校法人二松學舎、学校法人 東京家政学院

(団体) 東京商工会議所 千代田支部、千代田区商店街連合会、千代田区連合町会長協議会、公益財団法人 まちみらい千代田、NPO エコスクール推進協議会、2×3スリーレッグ、千代田区商店街振興組合連合会、神田駅西口商店街振興組合、社会福祉法人 三井記念病院、NPO 法人 コドモ・ワカモノまちing、一般社団法人 環境共生住宅推進協議会、千代田区 以上

～『エコチヨ』へのご意見、ご感想はこちらまでお寄せください～

◎千代田区環境まちづくり部環境政策課

住 所：〒102-8688 千代田区九段南 1-2-1
千代田区役所 5 階

電 話：03-5211-4253 (事業推進係)

F A X：03-3264-8956

メール：kankyouseisaku@city.chiyoda.lg.jp



◎千代田エコシステム(CES)推進協議会

住 所：〒102-8688 千代田区九段南 1-2-1
千代田区役所 5 階

電 話：03-5211-5085

F A X：03-3221-3405 (10月1日からFAX番号が変わりました)

メール：info@chiyoda-ces.jp



発行・編集：千代田区 環境まちづくり部 環境政策課／千代田エコシステム(CES)推進協議会
ロゴデザイン：御茶の水美術専門学校 河内彩子
発行日：2015年10月

※『エコチヨ』に掲載された情報は2015年10月時点のものです。掲載された記事・写真・地図・イラスト等の無断転載・複製を禁じます。

